



Sustainability Report 2017

TOKYO UNIVERSITY OF PHARMACY AND LIFE SCIENCES

東京薬科大学
サステナビリティ報告書 2017





本報告書の発行に当たって

本報告書は、東京薬科大学環境方針に基づき実施している様々な環境活動や社会貢献活動を記録するとともに、学内外に対して広く広報することを目的に発行いたしました。大学の経営と環境問題は密接に関係しており、環境配慮型経営を実施することは、大学の付加価値を向上させることに直結します。また、この報告書が、大学関係者や地域など様々なステークホルダー

に対してのコミュニケーションツールとして活用されることを前提として、各部門での取り組みを多く取り上げました。直近では「大学の社会的責任」という言葉に象徴されるように、大学にも企業と同等レベルの社会的責任が求められる時代となりました。本学としても、環境方針に掲げられた意欲的な人材育成の為に、本取組を強化し広報することとしています。

適用範囲
学校法人 東京薬科大学(八王子キャンパス)
東京都八王子市堀之内 1432-1
※環境マネジメントシステムに基づく組織構成はP.2を参照

対象年度 2017年度(2017年4月1日～ 2018年3月31日)
対象分野 環境的側面並びに社会的側面

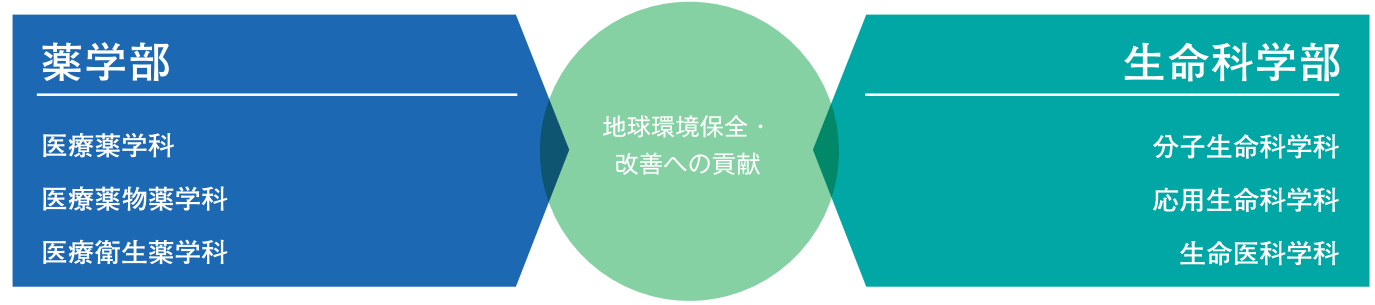
東京薬科大学 環境方針

1. **薬学と生命科学**を通じて、人々の健康と地球環境保全・改善への貢献を志向し、ヒューマニズムの精神に裏付けられた視野の広い技術者・研究者を育成する。
2. 本学は公開講座・研究活動を通じ、地域社会に対し広く環境教育の啓発活動を積極的におこない、環境意識の高揚を推進する。
3. 本学は教育研究活動に伴う環境負荷の低減(省エネ、省資源及び廃棄物の低減等)を推進するとともに、健全な環境を維持するための環境目的・環境目標を定め、全構成員は一致して、この目的・目標の達成につとめる。
4. 本学は教育研究活動に関わる環境法令、関連機関等との取り決めを遵守し、環境汚染の予防と自然環境の保全につとめる。
5. 本学における環境経営計画は、内部監査等を通じ必要に応じて見直すとともに、その継続的改善につとめる。

本環境方針は、構成する教職員・学生及び常駐する関連会社の職員に周知するとともに、本学ウェブサイト等を通じ、広く学内外に公表する。

平成27年4月1日

東京薬科大学だからできる環境問題への取り組み。2つの学部からアプローチ。



東京薬科大学の環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム導入の経緯

本学では、2005年に環境マネジメントシステム認証(ISO14001)を行い、2009年に認証を返還してからは独自の環境マネジメントシステムである「東京薬科大学環境経営システム」を新たに決めました。このシステムは、過去に取得していたISO認証にはこだわらず、大学という環境に適した美化や安全等の項目を取り入れた包括的な環境マネジメントシステムです。その中心として、理事・教職員・学生・生活協同組合・学

内常駐業者の全構成員の代表者で組織された「環境経営委員会」を軸にシステムを運用しています。委員会は、環境配慮を中心に取的に取りまとめて、円滑に進行していくために実施している役割を担っています。これは、既存のISO14001に準じた形の運用ですが、数値目標だけに捉わられることなく現実的な利便性を向上させながらも、活動を継続的に行っていく目的で進めています。

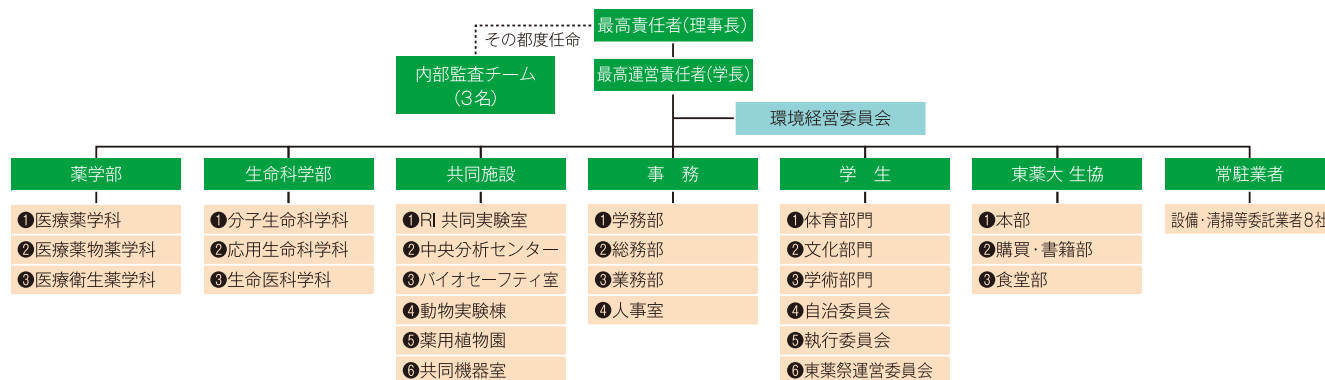
東薬式環境マネジメントシステム

次世代への地球環境保全・改善に寄与するために、学生・教員・職員が一体となって、あらゆる活動が環境と調和がとれるように努めています。システムの具体的な活動計画として、「環境経営システム実施計画」「環境経営5ヵ年計画」を2010年度に決めました。また、2015年度には次期(II期)の計画を定め、運用を開始しました。

委員会が定めた5ヵ年計画と年次計画に基づき、薬学・生命科学と環境問題をリンクさせた講義の開講、グリーンカーテンの普及などを実施しています。また、実験排水については排水処

理場において検査・分析を実施し、法令順守がされているかを監視する体制を構築しています。

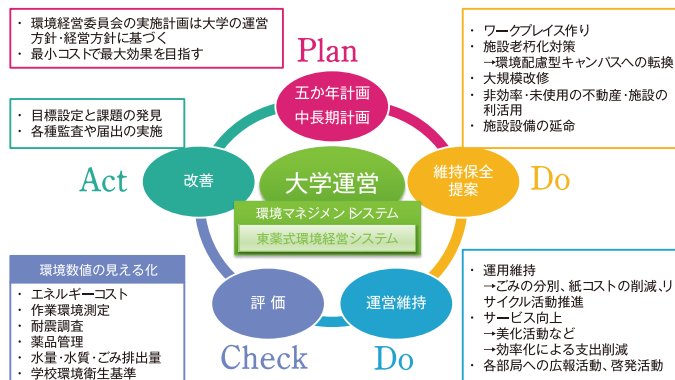
第II期の新たな活動としては、環境マインドを持った学生を育成する取り組みの強化を始めました。学生の代表者が新入生に対して、環境経営委員会の活動紹介や地球温暖化のメカニズムを解説する機会や、エコプロや私立大学環境保全協議会の研修会への参加する機会を設けることなど、様々な取り組みを展開しています。



コンセプトとマネジメントサイクル

「環境経営システム」は大学の運営に直結していることを念頭に置き、コンセプトの具現化に向けてPDCAサイクル*を運用しています。2017年度は、システムの広報を軸として、活動を行いました。次年度以降についても、その軸に加えて各部門における活動強化を考えながら、PDCAサイクルを運用していきます。さまざまな活動が見える化し、環境負荷の低減を推進しています。

*PDCAサイクル:Plan(計画)、Do(実施)、Check(点検)、Act(改善)を継続的に行う業務改善方法のこと。





薬用植物園温室

2017年度 活動報告

第34回全国都市緑化はちおうじフェアにスポット会場として参画

共同施設部門
(薬用植物園)

全国都市緑化はちおうじフェアは、八王子市市制100周年記念の中心的事業として9月16日から10月15日にかけて開催されました。薬用植物園はスポット会場として本事業に参画し、薬用植物の展示ならびに有毒植物に関する知識の普及啓発を行いました。さらに、里山再生と廃棄物の活用、コンクリート土留めの植え込みスペースを活用した植栽展示、ならびに、屋外プランターによるテラスの緑化についても来園者にご覧頂きました。

また、全国都市緑化はちおうじフェアの関連事業として、10月14日に八王子市東部地区環境市民会議主催の「社寺・巨樹と薬用植物園をめぐる」と称したツアーが催され、しめくりに薬用植物園での観察会が行われました。イネの育苗や間伐材の活用など普段から薬用植物園を利用して活動している里山保全サークルASIATOのメンバーのうち、事前に植物説明の講習を受けた3名の本学学生が解説を担当し、ツアー参加者26人とともに植物への理解を深めました。



フォーラム2017衛生薬学・環境トキシコロジー参加

薬学部門

東京都より温室効果ガス排出量の削減が求められており、そのために、全学を挙げて消費電力の削減など、省エネルギーに努めなければならないことを年度始めの教授総会において、薬学部教員に周知しました。

9月1日、2日に仙台で開催されたフォーラム「2017衛生化学・環境トキシコロジー」では、食の安全の問題、環境汚染の問題など幅広いテーマがとりあげられ、本学の衛生系の研究室からは、学部学生によるポスター発表を含め、複数の演題が出され、討論を通じて他大学の研究者との間で環境問題に関する意識交流がなされました。



エコプロ2017出展

生命科学部門

生命科学部・応用生命科学科では、2017年12月7日から9日に東京ビックサイトで開催された「エコプロ2017 環境とエネルギーの未来展」に出展しました。2015年、2016年には応用生命科学科からそれぞれ1研究室が展示していましたが、2017年には学科として6つの研究室が協同で出展しました。会場では、各研究室で進めているエネルギー・食料生産、環境保全、国際宇宙ステーションで微生物の実験などの研究例の紹介や、田んぼで微生物を利用した発電システムのミニチュア版で

あるバケツ稲を使った発電実験、オオミジンコの実体顕微鏡での観察と大型模型の展示、緑藻クロレラの乾燥粉末やクロレラの油脂を燃やす実験映像、モデル植物であるシロイヌナズナのさまざまな変異体などの展示を行いました。3日間の期間中、各研究室からの教員とともに学生が交代で、小学生や中学生・高校生、企業関係者などさまざまな見学者に対応しました。対応してくれた学生にも貴重な経験と刺激になったと思います。



2017年度 活動報告

グリーンカーテンの設置を通じて私たちが学んだこと

学生部門

学生部門ではグリーンカーテンの設置を計画し活動いたしました。この企画は建物の温度上昇防止に伴う消費電力の減少、並びにCO₂排出量の削減を目的としました。また成長後に収穫し、生協食堂にて提供することも視野に入れ、植物には節電ゴーヤと青はぐら瓜を用いました。活動は大きく4回に分けて行いました。1回目は、種植えです。種植えは昨年の反省を踏まえ、春休み中の4月に行いました。2回目は、スタイロフォームを加工し、プランターの水受けを製作しました。3回目は、発芽した苗をプランターへ植替えました。4回目は、グリーンカーテン設置場所にプランターを移動しました。

ゴーヤ、はぐら瓜の発芽率はそれぞれ96%、99%であり、ゴーヤは最終的に47本収穫することができました。収穫したゴーヤは、その後生協食堂にて学生に提供されました。今回の反省点として、はぐら瓜のグリーンカーテンができなかったことがあります。原因は、害虫であるウリハムシによる被害、設置場所が悪く日照時間が少ないことにより苗が十分に成長できなかったことが考えられます。またグリーンカーテン設置場所と設置していない場所の気温を測定した結果、温度計の設置場

所が悪く、グリーンカーテンの効果を確認することができませんでした。次回のグリーンカーテン設置においては、この反省を活かし、植物を枯らすことなくグリーンカーテンを完成させ、設置効果も確認したいと考えております。

今回は私たち学生部門の初めての活動となりましたが、上手くいくこともあれば計画通りにいかないこともあり、失敗を次回へ活かすことを考える機会となりました。



ガラクタ市～繋がり広がる、地域とリユース

生協部門

学生有志の生協組織部では、年に1度ガラクタ市を開催しています。ガラクタ市とは、大学の近隣住民から集めた、使っていないけどまだ使えるもの(私たちはガラクタと呼ぶ)を食堂1階の半分以上を使用した大規模なバザーで販売する催しで、多くの人に支えられ、2017年で42回目の開催となりました。ガラクタ市では生協組織部が4つの担当(衣服・雑貨・皿・本)に分かれ、品物の回収、仕分け作業を行います。また当日は少しでも快適にガラクタ市を楽しんでいただくために、クローカーや台車の貸し出しなどもしています。また、売れ残った商品のうち本は大学の古本募金への提供、他の商品は地域のリサイクルショップへ提供しています。東葉祭期間中に行われており、東葉生はもちろん、多くの近隣住民が楽しみにしており、毎年、たいへん多くの人々で活気に包まれ、開店前から長蛇の列ができます。また、ガラクタ市での売上金は日本赤十字社に寄付しており、2017年のガラクタ市では 605,939 円のご利用を頂

きました。家庭に眠り、輝きを失っていた彼らがガラクタ市を通して再び輝き、その輝きは地域を繋げ、リユースを広げる。今後も生協組織部はガラクタ市を盛り上げていきます。



ゴミのポイ捨ての啓発活動とゴミ回収活動

事務部門

学生の環境意識の向上を図るため、本学の環境方針、節電を喚起するポスターや学内で募集したマナーアップのポスターを掲示するとともに、学生自治会の前期及び後期学生大会において、学内外の禁煙の徹底、ゴミのポイ捨て禁止を呼び掛けました。また、東葉祭期間中、東葉祭運営委員会と事務職員による、キャンパス周辺のゴミ回収を実施し、学生が参加した環境美化活動を行いました。



会務報告

環境経営委員会では、各部門並びに評議員から委員を選出し、2017年度は全5回の委員会を開催しました。委員会では、四半期ごとの活動内容を発表し、年度末には年度計画に対する自己評価を実施しました。継続的な取り組みの一つとして、学外への研修会に参加し、直近の環境に対するトピックや業界の最新動向などの情報収集を行っています。2017年度は、初めて学園祭の模擬店の食器にリリパック（リユース・リサイクルパックの略称）を導入し、更なるゴミ削減に努めてまいりました。今後も環境負荷の低減に努めてまいりたいと思います。

環境経営委員会

第1回 2017年5月17日

委員顔合わせ、エネルギー使用量の確認、クールビズの実施報告、グリーンカーテン中間報告、今年度スケジュール調整

第2回 2017年7月26日

エネルギー使用量の確認、第1四半期活動報告

第3回 2017年10月18日

エネルギー使用量の確認、第2四半期活動報告、グリーンカーテン実施報告、第31回夏期研修研究会報告

第4回 2018年1月18日

エネルギー使用量の確認、第3四半期活動報告、エコプロ2017出展報告

第5回 2018年3月12日

エネルギー使用量の確認、第4四半期活動報告、年間活動自己評価、次年度実施計画

学外研修（私立大学環境保全協議会）

第31回夏期研修研究会

2017年8月31日～9月1日 福岡大学

出席者：共同施設部門、学生部門（薬学部・生命科学部）、事務部門、環境経営委員会事務局より8名

第34回総会・研究研修会

2018年3月15日～16日 千葉工業大学

出席者：共同施設部門、薬学部門（廃棄物廃液処理等対策委員長）、学生部門（薬学部・生命科学部）、事務部門、環境経営委員会事務局より8名

環境経営委員会 委員

2018年3月現在

委員長：安田一郎

薬学部：杉浦宗敏・早川磨紀男

生命科学部：藤原祥子・萩原明子

共同施設：横松力・三宅克典

事務：沼尾嘉千・田上啓・荒井翔平

評議員：増井孝

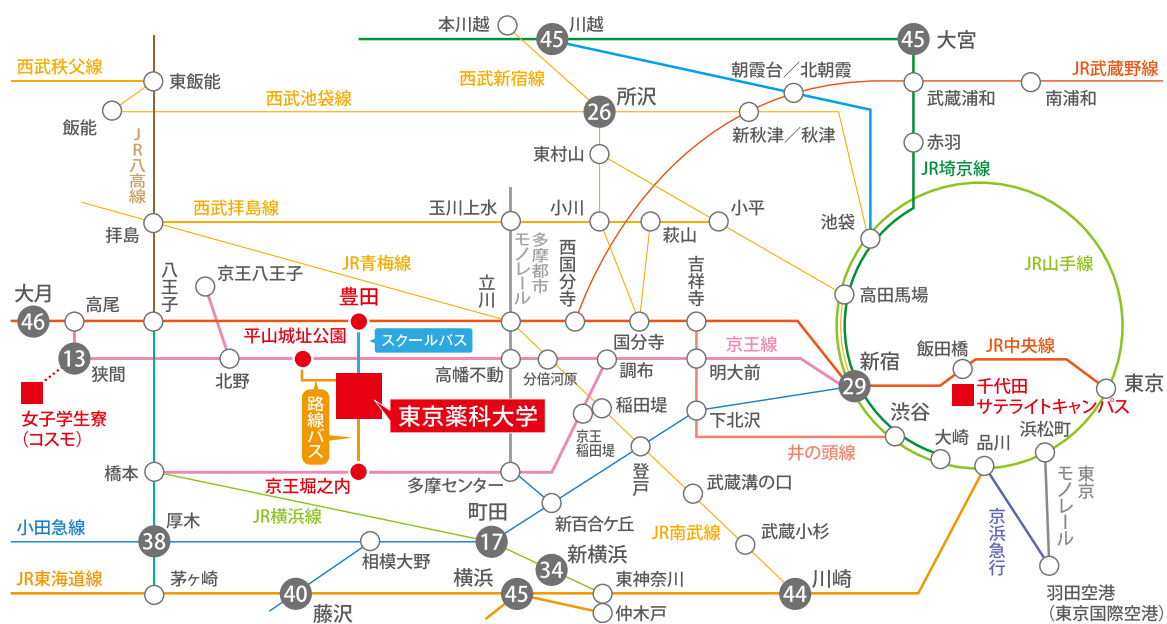
学生：大芦和紀・川守康裕・伊藤巧

東葉大生協：古本暁徳・引場将希・沼田理子

学内事業者：加藤正和（設備委託業者）



Access



※上記の図（●内の数字）の時間は出発駅から本学の最寄駅までの概算ですので、乗り継ぎにかかる時間や待ち時間は含まれておりません。

東京薬科大学

サステナビリティ報告書 2017



東京薬科大学
ひとつの選択で、
未来をかえる

2018年8月1日 第1版発行

編集 学校法人東京薬科大学 環境経営委員会
発行所 学校法人東京薬科大学 事務局総務部管財課
〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1
禁無断複製 © 学校法人東京薬科大学



みんなでシェアして、
低炭素社会へ。
東京薬科大学は、Fun to Shareに賛同しています。